

3版化学の新標準演習 正誤表 2刷用

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
本冊	62	92（2）	1行目	〈末尾に追加〉	（NaHCO ₃ の式量：84）	2023/12/28
本冊	116	例題54（2）	---	25℃, 4.0×10 ⁵ Pa	25℃, 1.0×10 ⁶ Pa	2025/3/27
本冊	126	180	1～3行目	グルコース C ₆ H ₁₂ O ₆ 360mg を含む1.0L の水溶液の浸透圧を, 27℃で右図のような装置を用いて測定した。	半透膜を取り付けたろうと管にグルコース C ₆ H ₁₂ O ₆ 72mg を含む0.20L の水溶液を水面と同じ高さまで入れて放置したら, 27℃で <i>h</i> cm の液面差が生じて平衡状態となった（右図）。	2025/9/1
本冊	156	214	図	「充電時」と「放電時」	〈位置を入れ替える〉	2025/3/19
本冊	183	□2（3） 解答	---	[H ₂ O]は定数とみなして <i>K</i> に含める	[H ₂ O]は一定とみなして <i>K</i> の式には含めない	2025/9/1
本冊	321	例題149	タイトル	共重合体の構成	共重合体の組成	2025/9/29
本冊	321	例題149 考え方（2）	8行目	$x \div 34$ [g] , $y \div 11$ [g]	$x \div 33.9$ [g] , $y \div 11.1$ [g]	2025/9/29
本冊	321	例題149 考え方（2）	9行目	$11/15 \times 100 \div 73$ [g]	$11.1/15 \times 100 \div 74$ [g]	2025/9/29
本冊	321	例題149 解答（2）	---	73%	74%	2025/9/29
別冊解答	86	180 解説（1）	7行目	360mg = 0.360g	72mg = 0.072g	2025/9/1
別冊解答	135	256 解説（2）	5～8行目	滴定前の[Cl ⁻]は1.0×10 ⁻² mol/Lであったが, 滴定後には[Cl ⁻]は2.0×10 ⁻⁶ になったから, [Cl ⁻]は滴定前に比べて, $(2.0 \times 10^{-6}) / (1.0 \times 10^{-2} \times 100) = 2.0 \times 10^{-4}$ すなわち0.02%に減少している。	滴定前のCl ⁻ は1.0×10 ⁻² ×0.020 = 2.0×10 ⁻⁴ mol 滴定後のCl ⁻ は2.0×10 ⁻⁶ ×0.025 = 5.0×10 ⁻⁸ mol すなわち, $(5.0 \times 10^{-8}) / (2.0 \times 10^{-4} \times 100) = 0.025\%$ に減少している。	2025/9/1
別冊解答	165	303 参考	1行目	（シーストランス異性体）	〈削除〉	2025/9/1
別冊解答	165	303 参考	図	シーストランス, ⇔	〈削除〉	2025/9/1

ページ		問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
別冊解答	166	305 参考	7～10行目	弱い酸性側に変色域をもつメチルレッドを使用 する必要がある。また、メチルレッドは酸性側 が赤色，塩基性側が黄色である。中和滴定で は，	酸性側に変色域をもつメチルオレンジ，またはメ チルレッド（酸性側が赤色，塩基性側が黄色）を 使用する。本問では，	2025/9/1
別冊解答	182	332 参考	2～4行目	二重結合の位置は二重結合を含む最長の炭素骨 格の端からつけた番号で示す。	二重結合の位置は最長の炭素骨格の端からつけた 位置番号で示す。	2025/9/1
別冊解答	183	333	構造式の番号	(iv)	(iv)'	2025/12/17
別冊解答	191	341 解説（1）④	構造式	C-C-C-CHO	C-C-C-C-CHO	2025/3/27
別冊解答	213	365 解説（4）（ウ）	---	〈「弱い酸性」の上の構造式〉C-CH	C-OH	2025/2/4
別冊解答	247	415 解説（4）	10行目	〈反応式〉	〈先頭（フェノールの構造式の前）に追加〉 <i>n</i>	2026/1/8
別冊解答	256	429 解説（4）（d）	---	〈構造式〉	〈酸素Oとカルボニル基のC＝Oの位置を逆にす る：2か所（(b)と同様の位置になる）〉	2025/10/1

<></>で囲まれた部分は以下のような文字です

- 下線 <u>□ </u>
- イタリック <i>□</i>
- 太字 □
- 上付き [□]
- 下付き _□